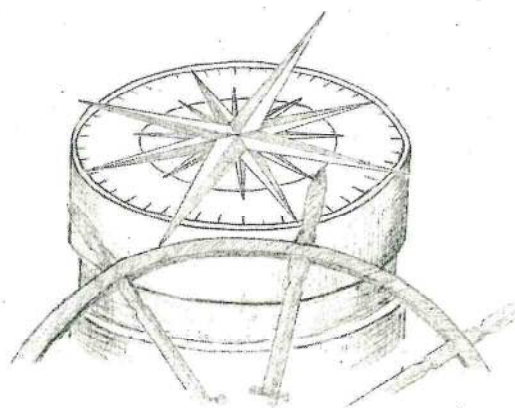


平成29年度
鹿児島学習定着度調査
姶良・伊佐地区結果分析



姶良・伊佐教育事務所

目 次

I	各教科の結果概要	1
1	各教科の全体平均通過率	1
2	各教科の平均通過率と受検者の正答数分布	2
(1)	小学校第5学年国語	2
(2)	中学校第1学年国語	3
(3)	中学校第2学年国語	4
(4)	小学校第5学年社会	5
(5)	中学校第1学年社会	6
(6)	中学校第2学年社会	7
(7)	小学校第5学年算数	8
(8)	中学校第1学年数学	9
(9)	中学校第2学年数学	10
(10)	小学校第5学年理科	11
(11)	中学校第1学年理科	12
(12)	中学校第2学年理科	13
(13)	中学校第1学年英語	14
(14)	中学校第2学年英語	15
II	児童生徒質問紙集計結果の概要	16～21

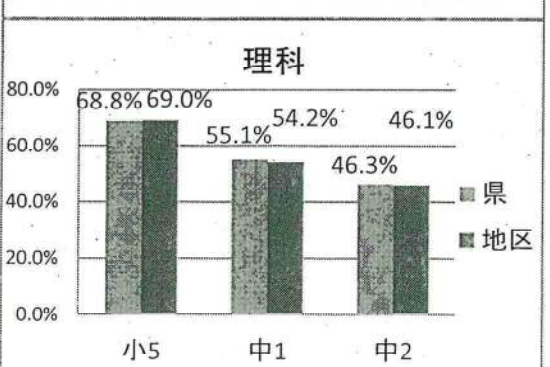
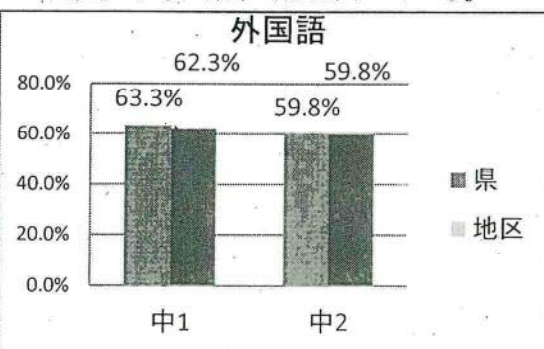
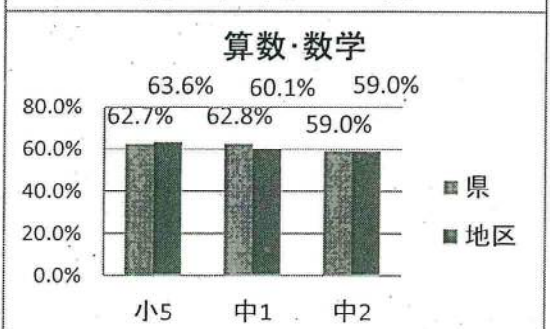
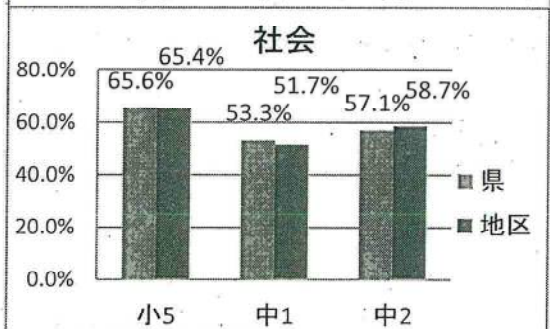
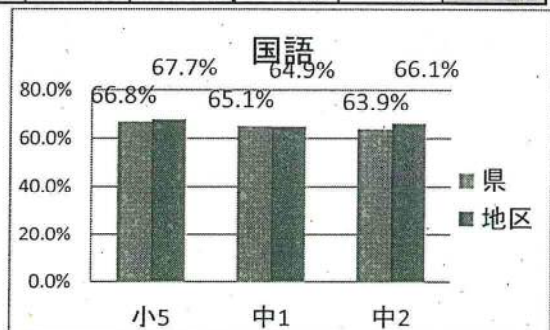
平成29年度鹿児島学習定着度調査 始良・伊佐地区の結果概要

1 各教科の通過率

学年	教科	全体			基礎・基本			思考・表現		
		県	地区	県との差	県	地区	県との差	県	地区	県との差
小5	国語	66.8	67.7	0.9	73.1	73.9	0.8	45.8	47.0	1.2
	社会	65.6	65.4	-0.2	69.4	68.7	-0.7	57.0	57.8	0.8
	算数	62.7	63.6	0.9	72.6	73.8	1.2	43.9	44.5	0.6
	理科	68.8	69.0	0.2	65.9	65.4	-0.5	73.4	74.6	1.2
中1	国語	65.1	64.9	-0.2	68.0	67.9	-0.1	57.6	57.0	-0.6
	社会	53.3	51.7	-1.6	59.2	58.2	-1.0	39.3	36.2	-3.1
	数学	62.8	60.1	-2.7	67.7	64.4	-3.3	50.6	49.4	-1.2
	理科	55.1	54.2	-0.9	59.7	59.6	-0.1	46.9	44.6	-2.3
	外国語	63.3	62.3	-1.0	68.4	67.6	-0.8	55.9	54.6	-1.3
中2	国語	63.9	66.1	2.2	68.5	70.3	1.8	53.2	56.3	3.1
	社会	57.1	58.7	1.6	61.4	62.3	0.9	46.9	50.3	3.4
	数学	59.0	59.0	0.0	66.8	66.5	-0.3	44.3	44.9	0.6
	理科	46.3	46.1	-0.2	56.3	55.9	-0.4	28.5	28.3	-0.2
	外国語	59.8	59.8	0.0	64.4	64.9	0.5	52.6	51.8	-0.8

2 県平均との比較から

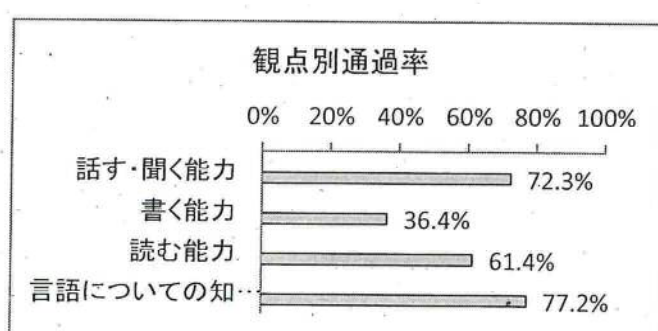
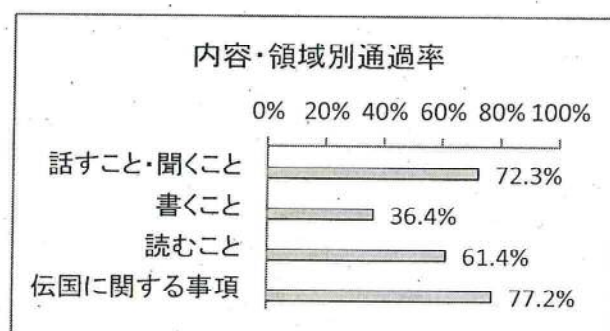
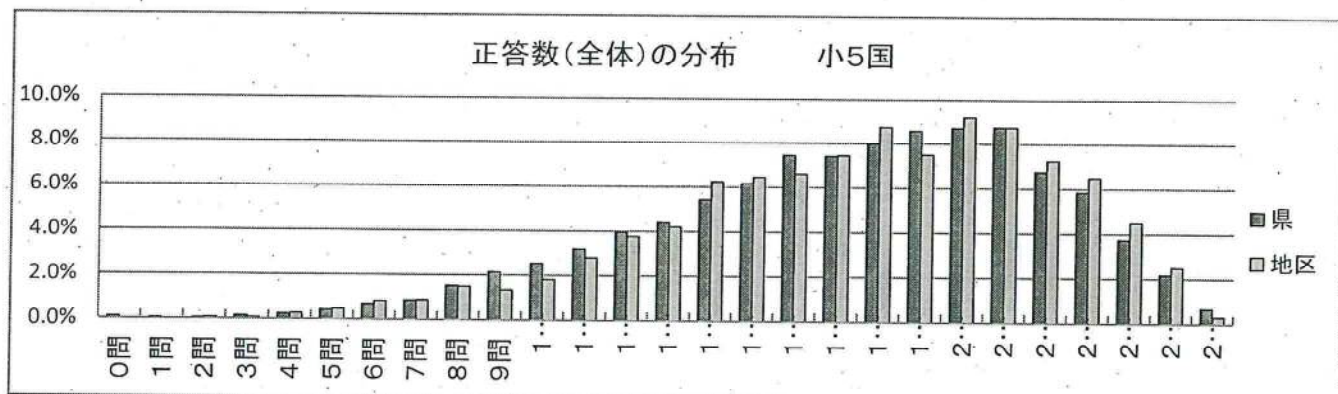
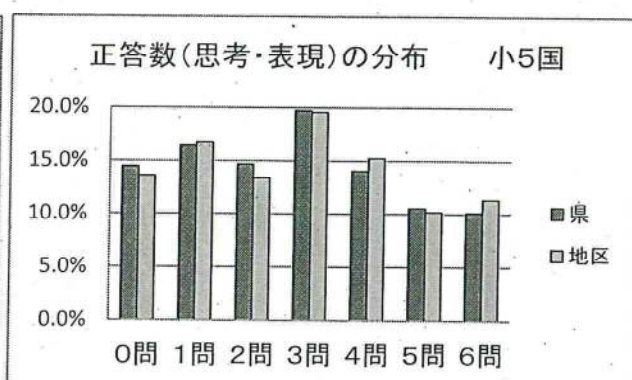
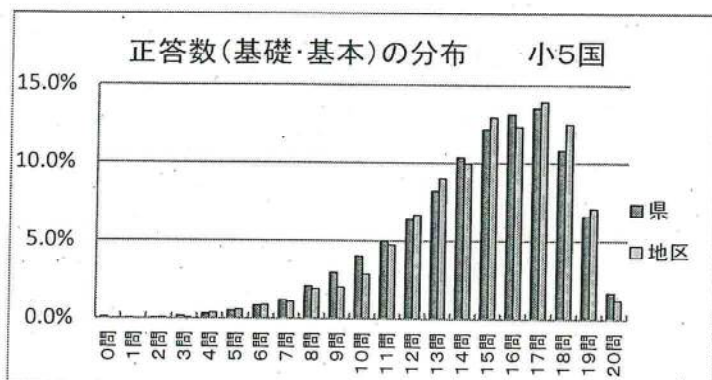
- (1) 県平均と同程度の通過率の教科が昨年よりは増えているものの、学年によっては課題も見られるので引き続き授業改善が必要である。
- (2) 「基礎・基本」では9/14教科、「思考・表現」では7/14教科が県平均に達していないことから、「基礎・基本」「思考・表現」とともに指導の充実を図る必要がある。
- (3) 小学校においては、全体で見ると4教科中3教科が県平均を上回っている。特に、「思考・表現」においてはすべての教科が県平均を上回る結果となっている。
- (4) 中学校1年生においては、全体で見ると、5教科全てが、県平均を下回っている。特に、「基礎・基本」も、県平均を下回っており、授業改善が喫緊の課題である。社会、数学、理科の「思考・表現」は、目標通過率の5割を下回っている。
- (5) 中学校2年生においては、全体では理科以外の教科で県平均を概ね上回っている。特に国語、社会では「基礎・基本」「思考・表現」とともに県平均を上回っている。



各教科の平均通過率と受検者の正答数分布

小学校5年 国語

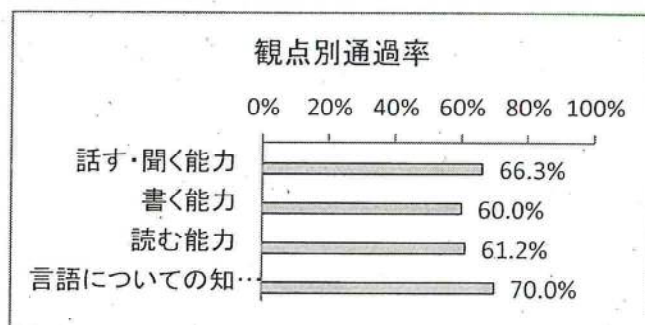
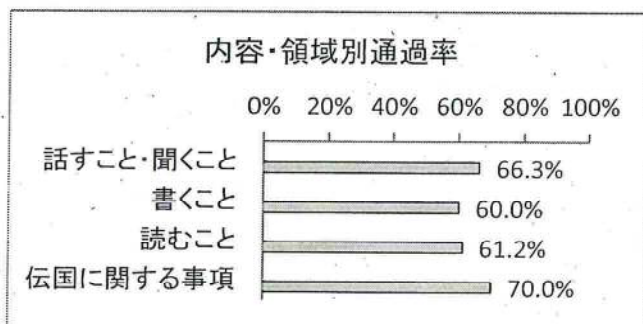
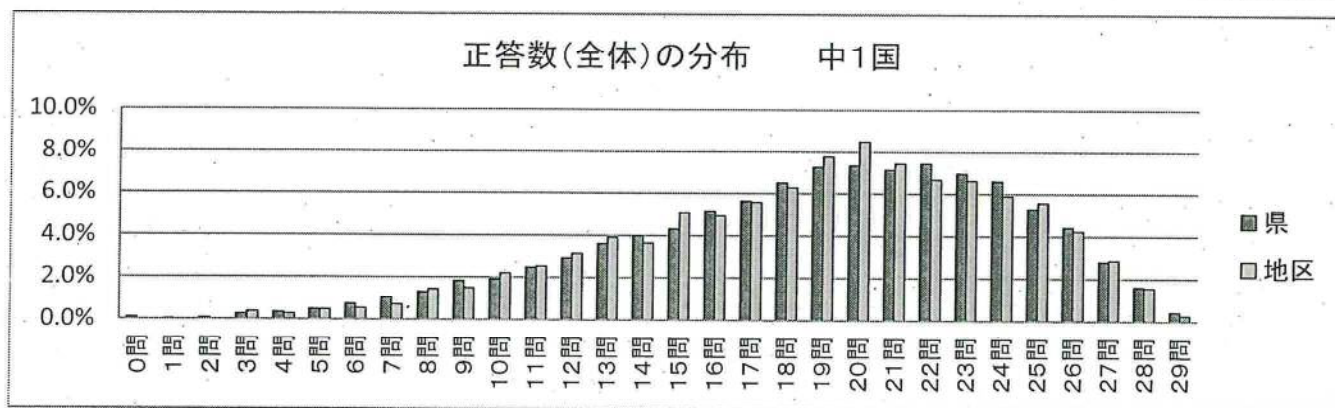
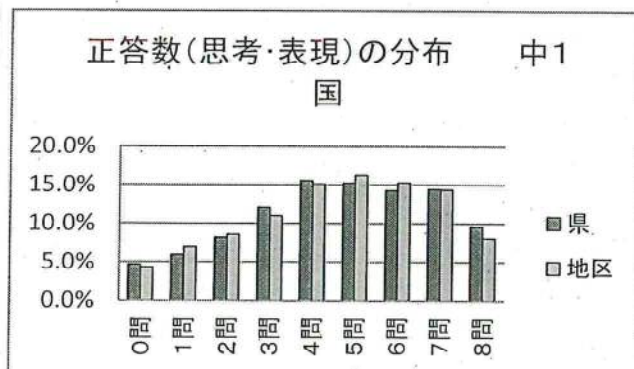
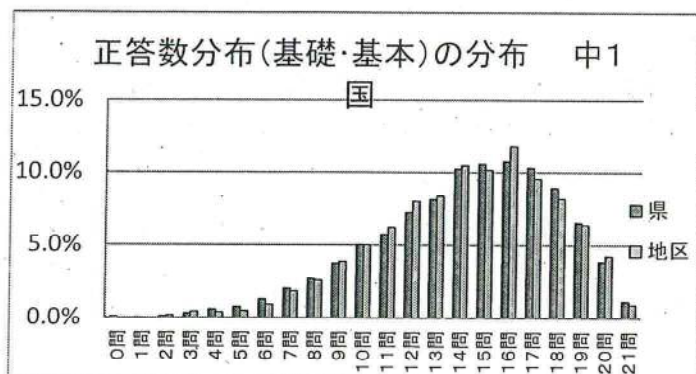
	県	地区	県との差
基礎・基本	73.1	73.9	0.8
思考・表現	45.8	47.0	1.2
全体	66.8	67.7	0.9



- 「基礎・基本」については、平均通過率 73.9%であり、県平均を 0.8 ポイント上回った。「ローマ字を正しく読んだり、書いたりすること」や「場面の移り変わりに注意しながら、叙述を基に想像して読むこと」等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 47.0%であり、県平均を 1.2 ポイント上回った。「目的に応じて適切な文章を複数選んで読むこと」「事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと」等に課題がある。
- 今後は、「場面の移り変わりに注意しながら読む」ために、一つの場面だけではなく、複数の場面において描かれている登場人物の性格が分かる叙述を関係付けながらか読むことが大切である。また、「適切な文章を複数選んで読む」ためには、児童自身がどのような情報を集めたいのか明らかにした上で、目次や索引を使って必要な情報を見付けたり、見出しや写真とその解説の文章に着目させたりしながら読む経験を重ねることができるようになることが大切である。

中学校1年 国語

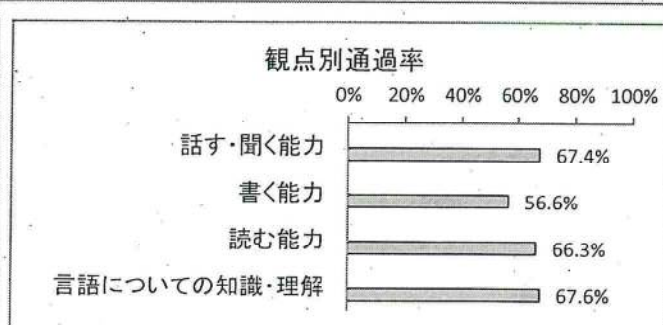
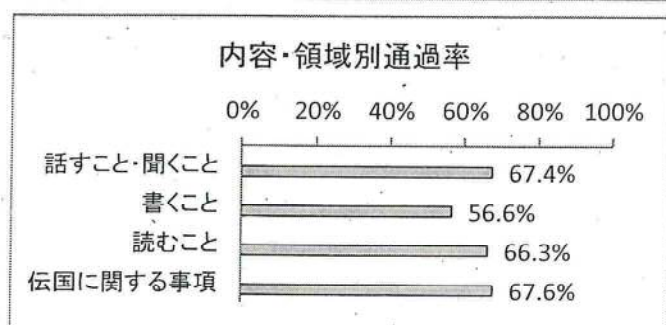
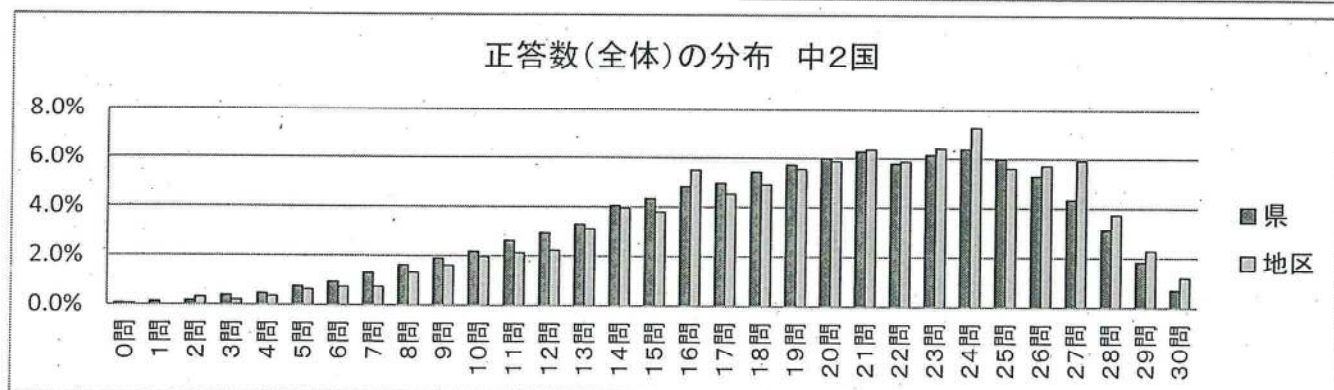
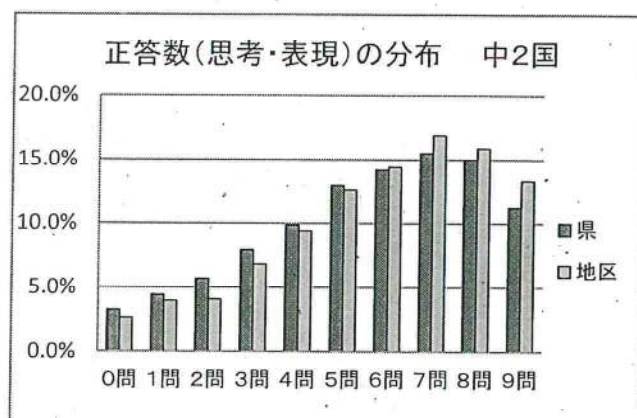
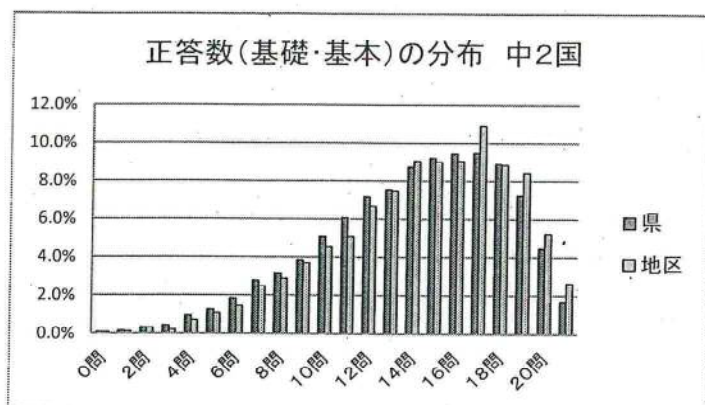
	県	地区	県との差
基礎・基本	68.0	67.9	-0.1
思考・表現	57.6	57.0	-0.6
全体	65.1	64.9	-0.2



- 「基礎・基本」については、平均通過率 67.9%であり県平均より 0.1%低くなっている。特に、文章の内容を表現に即して的確に押さえることや目的や必要に応じて大切な情報を選択し整理することに課題がみられる。
- 「思考・表現」については、平均通過率 57.0%であり、目標通過率には達しているものの、県平均には 0.6 ポイント及ばない。言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり登場人物の心情を読み取ること、図表の効果的な使い方について考えながら、相手や目的を意識した表現を工夫すること等に課題が残った。
- 今後の取組として、文学的な文章では、時間的・空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などについて、正確な音読や作品の特徴を生かした朗読を通した理解を深める取組を求めたい。説明的な文章では、論の展開や構成に注目し、事実と意見、中心的な部分と付加的な部分の読み分けることが大切である。また、図表がどの部分に関連しているか確認させながら内容をよりの確に読み取らせたい。

中学校2年 国語

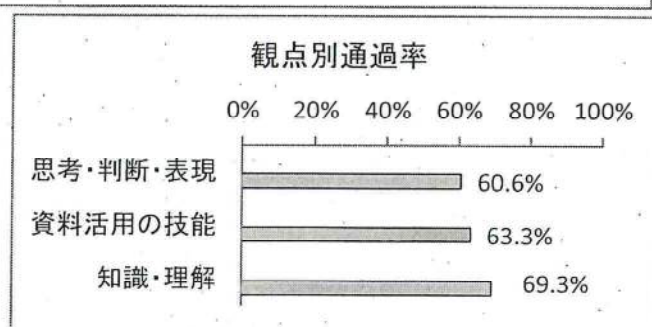
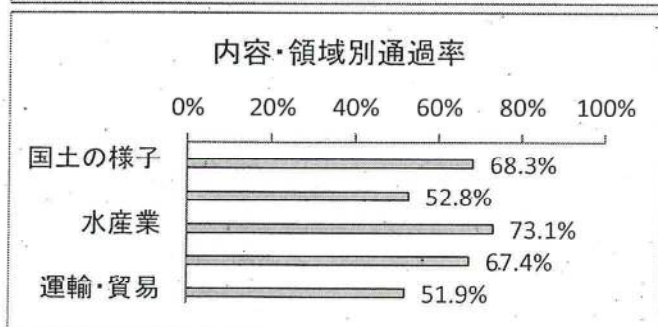
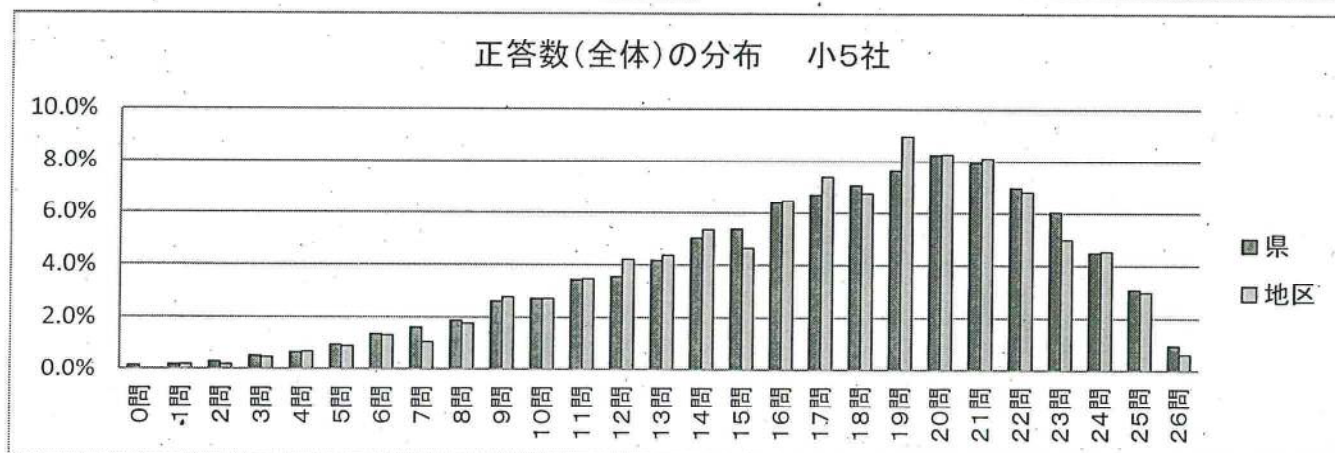
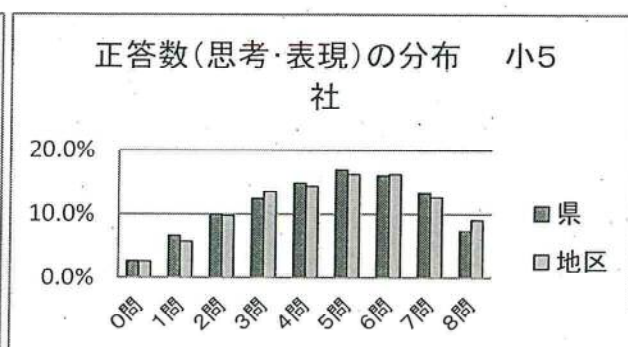
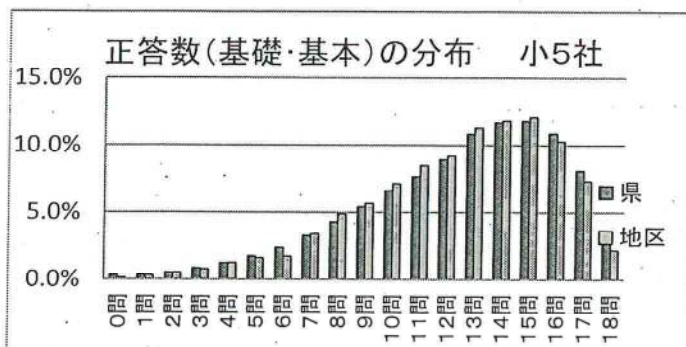
	県	地区	県との差
基礎・基本	68.5	70.3	1.8
思考・表現	53.2	56.3	3.1
全体	63.9	66.1	2.2



- 「基礎・基本」については、平均通過率 70.3%であり県平均より 1.8 ポイント高い。しかし、古文における文語のきまりや重要古語の理解の未定着、文章の内容を的確に捉えること等に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 56.3%であり、目標通過率に達し県平均よりも 3.1 ポイント高い。設問レベルでみると、書き手の意図を捉えた上で自分の考えをもつ問題や読み取った情報を関連付けて自分の考えを述べる問題の通過率が低く、無答率が高かった。
- 今後の取組として、文学的な文章では、登場人物の言葉や行動が、作品全体に表れたものの見方などどのように関わっているかを考えさせたい。また、書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比させたり置き換えさせたりして、読み手が自分の問題として捉えられるような工夫が大切である。説明的な文章では、書き手の考え方がどのように表されているか、その表現の仕方について根拠を具体的に挙げながら検討するような言語活動を計画したい。

小学校5年 社会

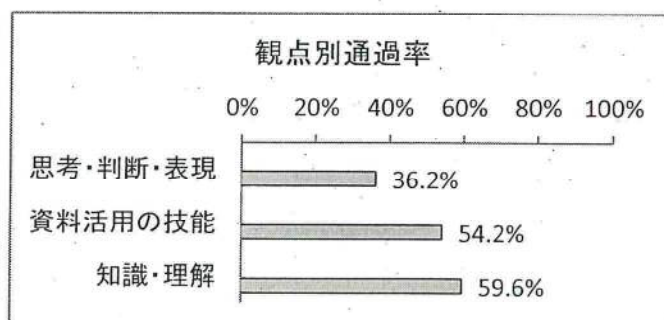
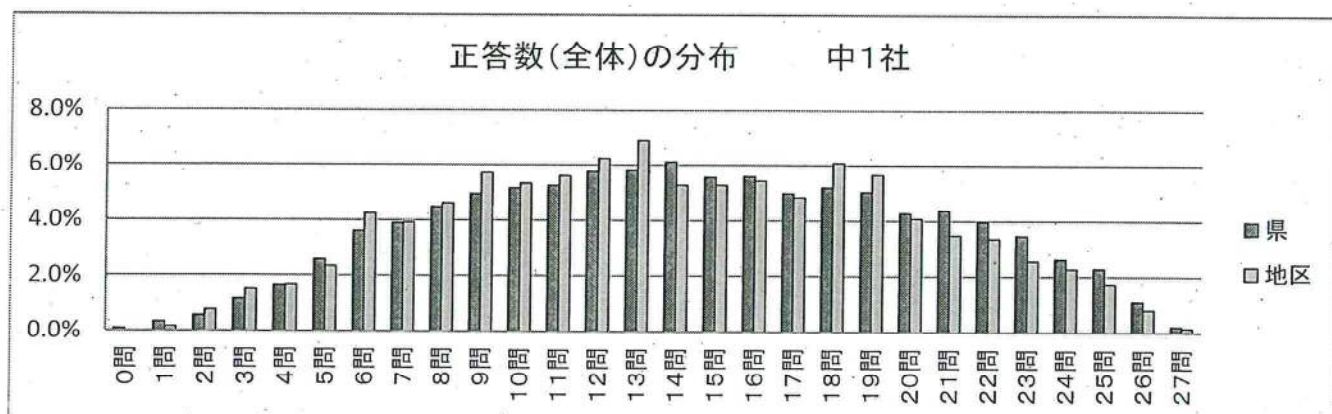
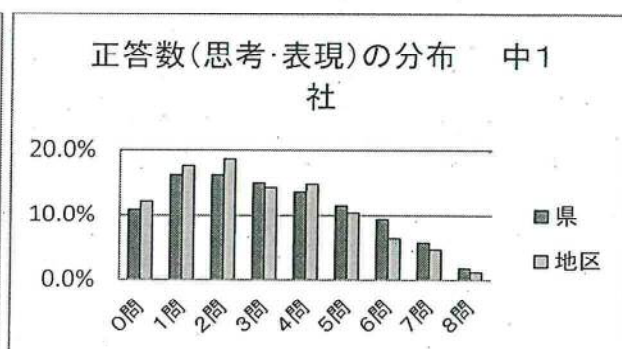
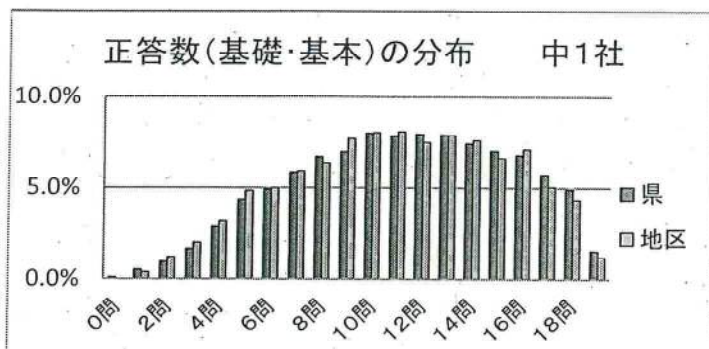
	県	地区	県との差
基礎・基本	69.4	68.7	-0.7
思考・表現	57.0	57.8	0.8
全体	65.6	65.4	-0.2



- 「基礎・基本」については、平均通過率 68.7%であり、目標通過率の8割には達しておらず、県平均よりも-0.7ポイントと低くなっている。特に、「米作りが盛んな地域の特色や米作りの手順等に関する問題」や「我が国の近隣の国々との領土をめぐる問題を漢字で解答する問題」に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 57.8%であり、目標通過率の5割を達成し、県平均を0.8ポイント上回った。概ね定着が図られているが、「工業地帯や地域の立地条件を工業の種類や輸送手段と関連付けて説明する問題」が課題である。さらに、無解答率が10%を超える問題もあり課題が残る。
- 今後は、基礎的・基本的な語句や社会的現象の意味をしっかりと理解させた上で、根拠となる資料を示しながら説明させる場の設定や、話し合い、レポートや社会科新聞の作成等、児童相互による多様な思考の交流の場の設定により、多面的に考察させるような授業展開の工夫が必要である。

中学校1年 社会

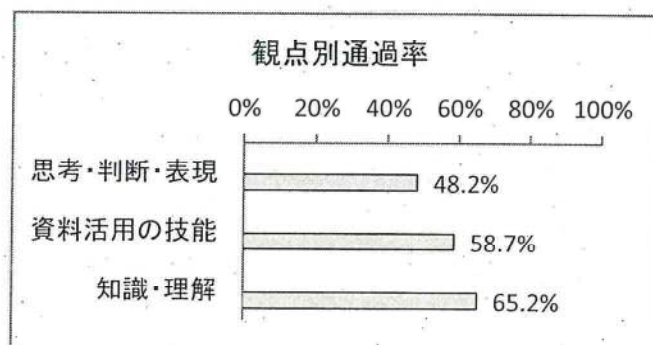
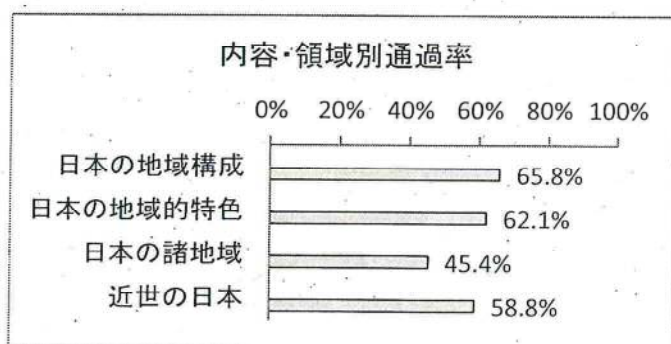
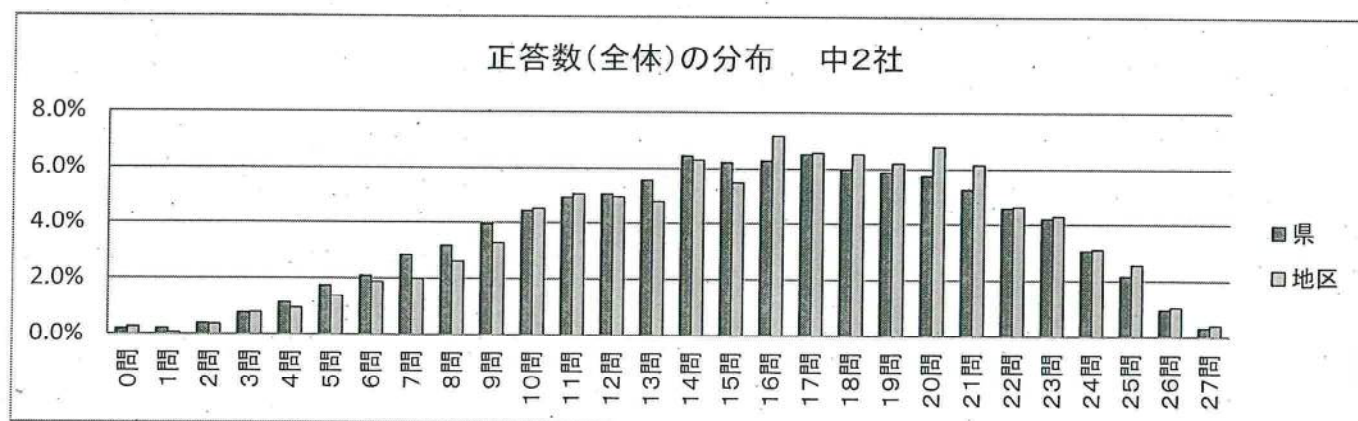
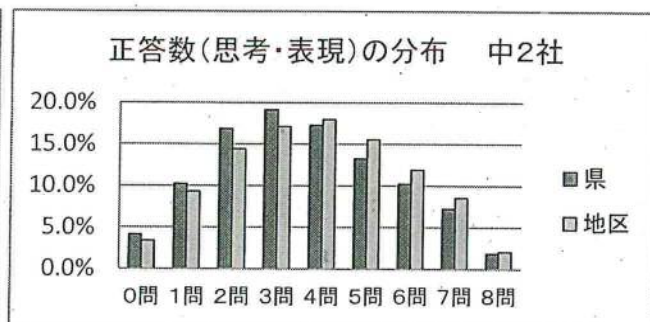
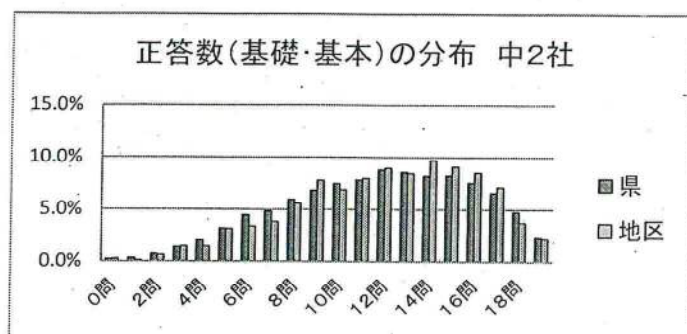
	県	地区	県との差
基礎・基本	59.2	58.2	-1.0
思考・表現	39.3	36.2	-3.1
全体	53.3	51.7	-1.6



- 「基礎・基本」については、平均通過率 58.2%であり、目標通過率の 8 割には達しておらず、県平均よりも -1.0 ポイント下回っている。特に、「気候帯や世界各地の人々の生活の様子を問う問題」に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 36.2%と目標通過率 5 割には達していない。県平均を -3.1 ポイント下回っており、課題が大きい。特に、「飛鳥時代の日本と東アジアの国々との関係を問う問題」や「奈良時代の農民の生活の様子を問う問題」に課題がある。
- 今後は、地図や表、グラフといった資料の基本的な見方を確実に理解させるとともに、資料から分かることを、自分の言葉でまとめたり、発表させたりすることで、表現力を高めるような学習に取り組ませることが必要である。

中学校2年 社会

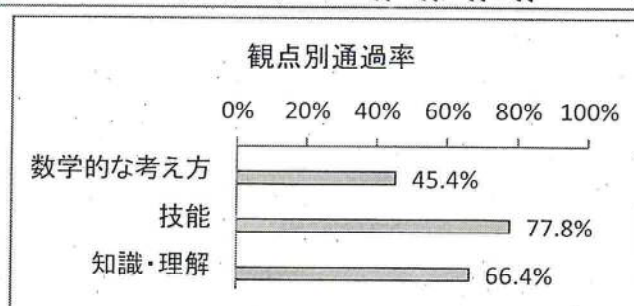
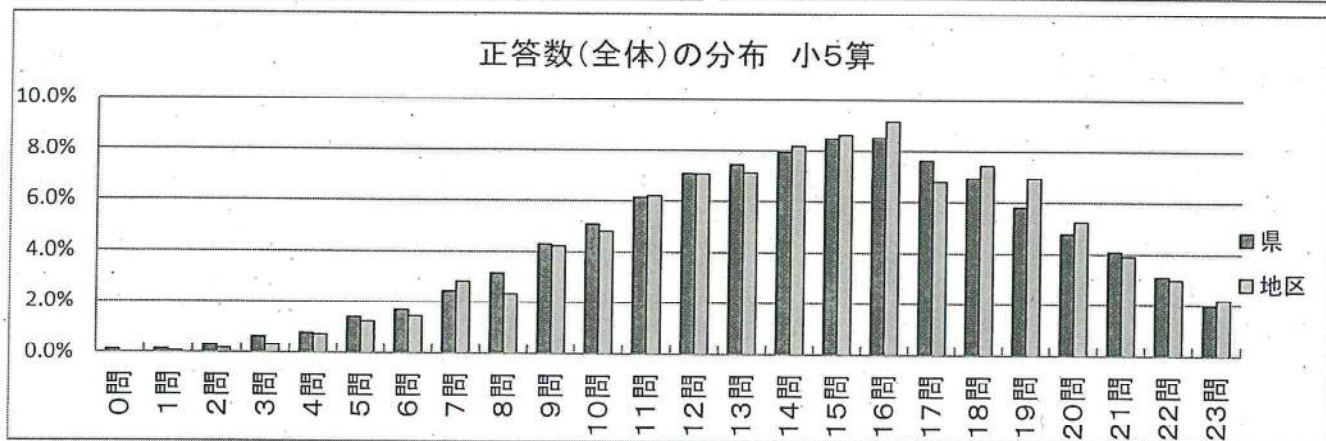
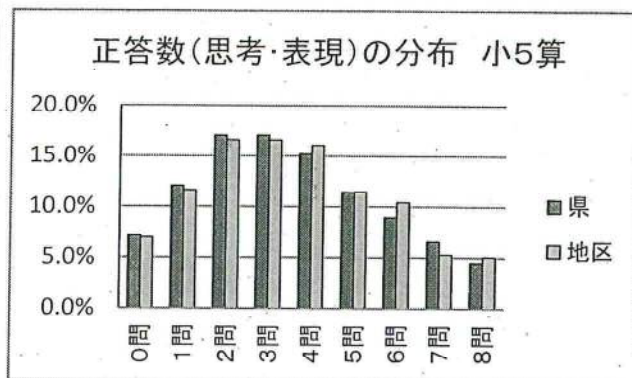
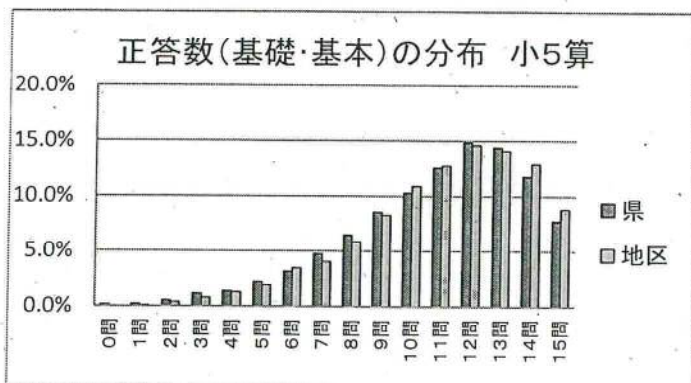
	県	地区	県との差
基礎・基本	61.4	62.3	0.9
思考・表現	46.9	50.3	3.4
全体	57.1	58.7	1.6



- 「基礎・基本」については、平均通過率 62.3%であり、目標通過率の8割には達していないが、県平均を0.9ポイント上回っている。特に、「シラス台地の分布やその特徴を問う問題」や「砂丘海岸の分布やその特徴について問う問題」に課題がある。
- 「思考・表現」については、平均通過率 50.3%と目標通過率5割を達成し、県平均を3.4ポイント上回った。特に、「特定の人物のできごとについて相互の関係を判断する問題」に課題がある。
- 今後は、複数の資料を読み取り、解釈し、関連付けるような活動の設定が必要である。また、図やグラフ等の資料から気付いたことをもとに、自分の言葉でその要点をまとめ、生徒相互に考えや意見を交流するなど、習得した知識・技能を積極的に活用する場の工夫により、更なる学力向上を図る必要がある。

小学校5年 算数

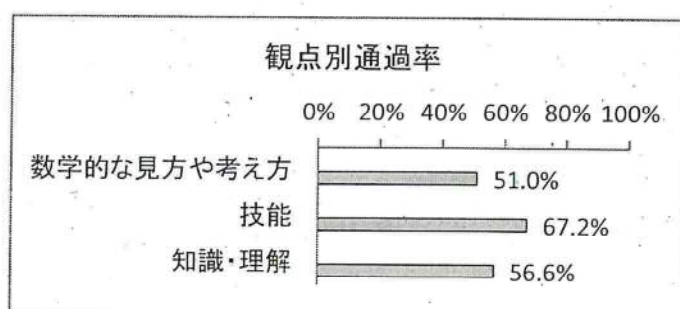
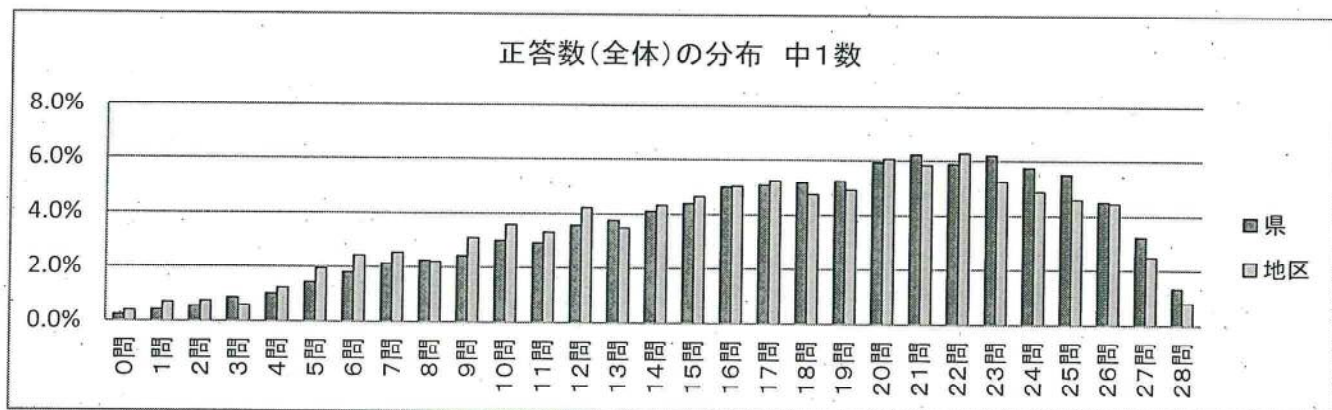
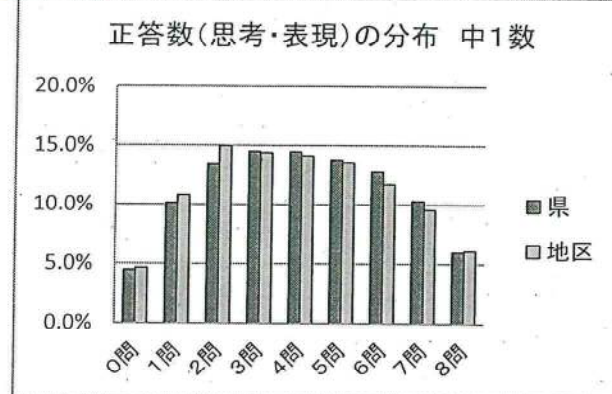
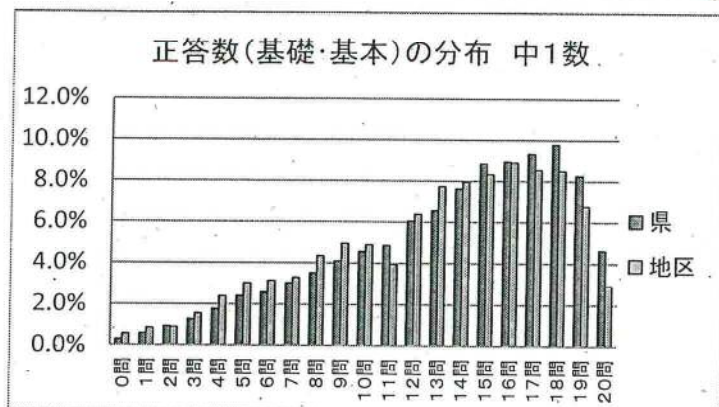
	県	地区	県との差
基礎・基本	72.6	73.8	1.2
思考・表現	43.9	44.5	0.6
全体	62.7	63.6	0.9



- 「基礎・基本」の地区通過率は73.9%で、県平均より1.2ポイント高くなっているが、目標の8割には達していない。特に、四角形の面積を既習の図形に分けたり、全体から引いたりして求める問題や、合同な三角形を作図するために必要な条件をもとに考える問題、倍の関係にある2つの数量を表す線分図を選択できるかという問題に課題が見られる。
- 「思考・表現」の通過率は44.5%で、県平均より0.6ポイント高くなっているが、目標の5割には達しなかった。全体量を平均から算出し、合計秒数と比較して目標に足りないことに気付くことができるかという問題や、共通する図形の面積の関係を捉え、その関係が成り立つことを説明できるかを考える問題に課題がある。
- 今後は、計算の決まりや式の多様な使い方を練習させたり、図形の中から問題解決に必要な部分を抜き出して、条件を考えながら面積を求めさせたりする取組が必要である。

中学校1年 数学

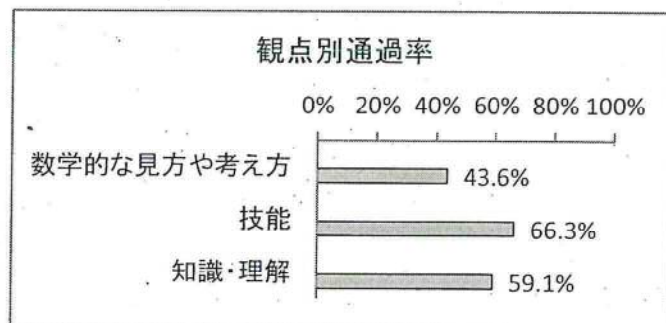
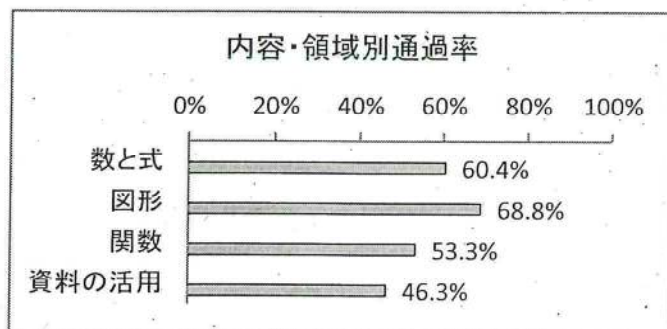
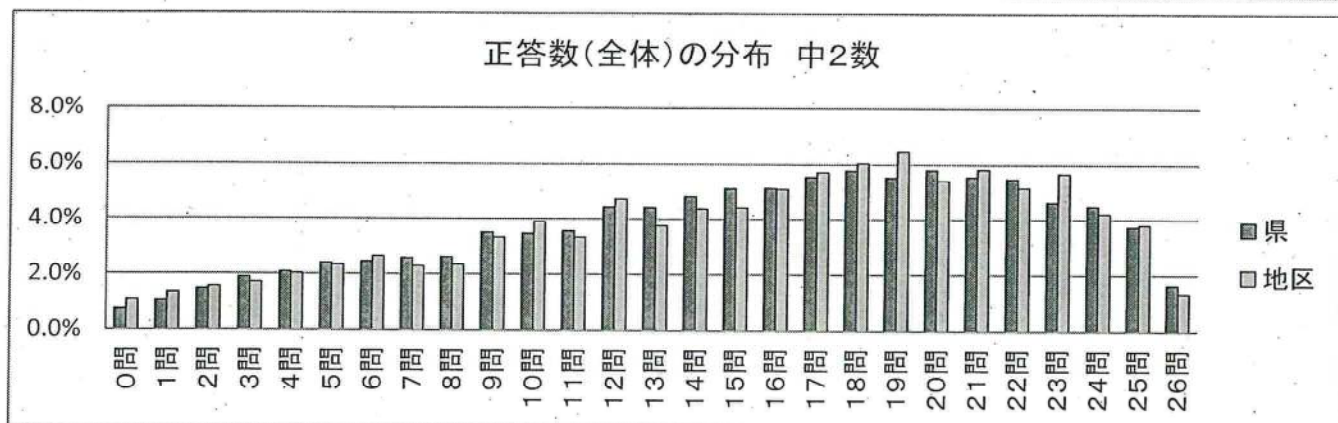
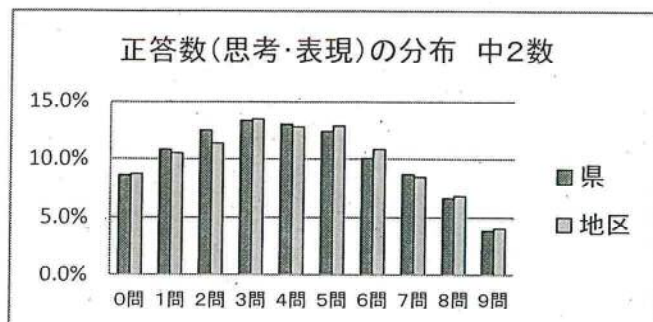
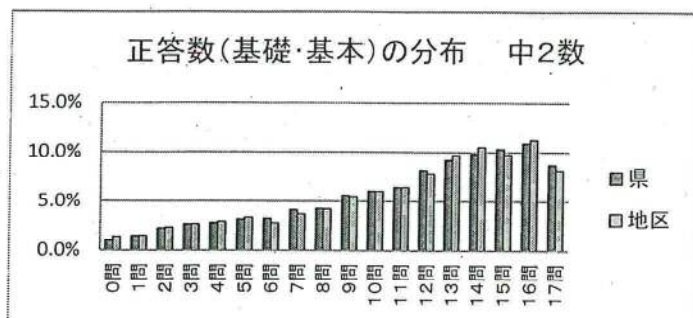
	県	地区	県との差
基礎・基本	67.7	64.4	-3.3
思考・表現	50.6	49.4	-1.2
全体	62.8	60.1	-2.7



- 「基礎・基本」については、県平均の 67.7%よりも 3.3 ポイント低く、差が開いている。特に与えられた範囲の全体に対する割合を求める問題や、立体の展開図を組み立てたときの辺と垂直な辺の位置関係を理解しているかを考える問題に課題がある。
- 「思考・表現」については、県平均の 50.6%に届かず、目標の 5 割にも達していないため、課題が残っている。特に、問題から数量関係を捉え、課題を解決する問題や、条件を変えた色紙の並べ方の規則に気づき、個数を求める式について文字を用いて説明する問題、与えられた条件を基に、扇形の面積を求める問題などに課題が見られる。
- 今後は、2つの数の関係を押さえて考えたり、問題場面の情報の中から必要な情報を選択して考えたりする活動に取り組ませる必要がある。

中学校2年 数学

	県	地区	県との差
基礎・基本	66.8	66.5	-0.3
思考・表現	44.3	44.9	0.6
全体	59.0	59.0	0.0



- 「基礎・基本」では、県平均通過率の66.8%に達しておらず、目標の8割にも達していない。単項式どうしの乗除の混じった計算や立式された連立方程式の x が何を表すか考えることができるかを考える問題に課題がある。
- 「思考・表現」では、44.9%と目標の5割には達していないものの、県平均を超える結果となった。文字式を使って数の性質を説明する問題や、度数折れ線の特徴を比較して説明する問題、数量関係をグラフに表し、2つのグラフの関係を読み取ることができるかを考える問題に課題がある。
- 今後も引き続き、問題場面のいくつかの情報から必要な情報を選択し、自分の考えを文字を使った式で表したり、グラフからいえることを説明したりする活動に取り組ませる必要がある。